

# PRESS COLLECTIVE

— spring 2026 —

collective vol.53

11th April 2026

@event space 雲州堂



https://collective-music.com/

edit: tawaki, 楠田行展 text: pogo, tawaki design: yukiokimura.com

## Interview

### POGO インタビュー

コレクティブは2004年に関西学院大学音楽研究部(オンケン)の卒業生が中心になって始めた週末午後の音楽イベントです。第53回のコレクティブではオンケンに所属する現役大学生のPOGOをゲストにフィーチャーします。

——1990年代後半から2000代前半にかけてのオンケンはクラブミュージックだけでなく、AOR、レゲエ、ブラジル音楽など、新旧さまざまな音楽を愛好する人が集まっていました。最近はどうな感じですか？

DJ・DTM・リスナーが4…2…4くらい？ハイパーポップ以後のヒップホップが好きなリスナー層が多い印象です。硬派なテクノ好き、UKガレッジ好き、レイヴミュージック好きもいれば、オルタナロックのバンドをやりたいという子もいます。ゲーム音楽やアニメ系の音楽が好きな子たちもいて、広義のサブカルチャー音楽全般に精通したメンツが揃っています。昨年、部費と助成金でXDJ-AZというPioneer Dの民生向け最上位機材を購入してから、空きコマは誰かしら部室で練習してる子がいる感じになっています。甲東園のBAR「アルケミー」で新歓のDJパーティをさせていただいたり、神戸のオトハトバ／ロンカイトンでも学祭の前夜祭を開催するなど、西宮／神戸ローカルのシーとの繋がりもあります。

——POGOの音楽のルーツを教えてください。

遡ると結構前になるのですが、母ちゃんがクリスチャンなんです。物心つく頃から教会に通っていて。その牧師が奥田知志というホームレス支援で有名な人で、その息子が奥田愛基さん。彼は安保法制の反対運動をしていたSEALDsのリーダー的な人です。僕は「愛基兄ちゃん」って呼んでいて、小さい時に遊んでもらっていました。インターネット越しにSEALDsの運動を見ていて。その中でヒップホップなどにも触れました。ちょうど10年前です。SEALDsでは愛基さんの相方みたいな立場だったUCDという人のラップにも食らいました。

——幼い時からカウンターカーチャーが染み込んでいますね。

中学生ぐらいの時はゲーセンの音楽ゲームをやっていたんですよ。Jubeatというリズムゲームです。音楽ゲームを通じて「これがトランスなんだ、ドラムベースなんだ」って知るようになって。僕は自転車少年でもあったんですよ。「魔改造」と言われるような変な改造が好きで。カメラも好きで、地元・小倉の駅裏でBMXをやってる悪ガキたちと仲良くなってる。自分はBMXのカメラマンと自転車のメカニックみたいな立場で悪ガキたちと仲良くなり、その流れで謎の自転車屋「ニュー・タチコギ」に連れて行かれました。店主が渋いディーブハウスをかける人。その自転車屋の常連に連れて行かれた「インサニティ」というカフェでレゲエ

のレコードのB面のバージョン(インスト)と日本のシティポップをロングミックスでマッシュアップするDJを見て食らったのを覚えています。

——ダンスミュージックの入り口が面白いですね。

ジャンルを意識して聴き出したのが高校生ぐらい。アニソンとかボーカロイドとかインターネット系のオタク文脈にはすごく通じていて。ボーカロイドなんかは中田ヤスタカみたいなテクノポップみたいな音楽に影響を受けてる人たちが結構いて、そういうのをいっばい聴いてきました。「これがハウス、これがテクノ」みたいなのがわかってきた時にSoundCloudが流行っていて、そこでアニソンのクラブリミックスを作っている匿名性の高いカルチャーに触れていました。

——アニソンって言っても僕ら40代が想像しているものとはだいぶ違うような気が…。

完全に「萌え萌えオタクくん向けアニメ」です。そんなアニソンのボーカルだけを残したブートレグのリミックスがあるんですよ。自分の好きなアニソンがバキバキのテクノになっていたり、ドラムベースになっていたりしたら嬉しいじゃないですか。

——POGOがDJをやり始めたのはいつから？

大学1年です。今は大学5年なのでちょうど丸4年。アニソンのリミックスにはまったのがきっかけです。ネット上のオタクファンの「ミニニティがあっ

て、そこで知り合った人から機材譲ってもらってやり始めたのが最初です。

——どういった機材？

DDJ-400ってあのPIONEERの入門的なDJコントローラーです。アナログでDJやりたいんですけど、手を出す金銭的余裕がない。持っているバイナルは2枚だけです。自分の周りではターンテーブルの現場がほぼないので基本全部デジタルで。

——カルチャーショックです。POGOの軸でもあるフットワークはポピュラーなジャンルなのですか？

どマイナーです。フットワークの話をして通じたら嬉しいぐらい。ダンスミュージックをやってる人たちに初対面で「こんな音楽やってるんですか」って言われたら「ジャングル」とか「スレイブ系の(BPM)160です」って言うんです。それである程度話が分かってきたら「フットワークっていうのが僕の軸なんですけど」って言って。

——フットワークとの出会いは？

ONMIDE「LABEL」という10年ぐらい続いているネットレベルのオナーのYXXさんとは中高生時からネット友達で色々やりとりしていて。そのレベルの中で「おもしろや」というコンピレーションアルバムがあったんです。いわゆるシカゴ・フットワークのゴリゴリのゲッター的な文脈ではなくて、日本で独自に進化したインターネットとクラブで広まったジューク／フットワークを知るには最適みたいなコンピがあった。

Third-Thursday All Genre Groove Music Trio Party  
**3NINKAI**  
 Statement From POGO  
 フロアに居るオーディエンスは全員平等であり、自由です。  
 イスに座る/立つ/踊る/踊らない  
 お酒を飲む/飲まない(コーヒも有り)  
 友達を作る/ひとりじっくり  
 途中で到着/途中で帰る/再入場  
 スマホ/本読む/PCで作業etc...  
 すべての選択を尊重します。  
 今回はB2Bセッションがあります。  
 USBメモリの持参がオススメです。  
 YES:グッドバイス/親切/愛  
 NO:差別とハラメント

what is 3NINKAI  
 POGO with Friends, No Dry Bars and Dance Music  
 4th Floor, 1st Floor, 2nd Floor, 3rd Floor, 4th Floor  
 4th Floor of Aomae, POP, Vocalist, VJ/Singer

Disc:500yen (Drink:600yen)  
 Student:1230yen+tax  
 2025.7.19 (Sat.) 19:00- at Osaka Umeda MEMEME

—— POGOが関わっているパーティーについて教えてください。

アメ村のTriangleでレイブ系のドラムベース/ジャングルのRUN DA BASSというレギュラーパーティーがあって、僕はそのカメラマンとして関わっています。2025年の11月からお初天神の箱で3NINKAIというパーティを主催しています。ジャンルはあまり決めてなくて、ダンスグルーブ、4つ打ちノリで、僕がゲスト2人を呼んで3人で回すので3NINKAI (3人会)というイベント名です。

—— ゲストとはどういう関係ですか？

初回のゲストは僕の大先輩のカメラマンでDJの人とオンケンの後輩。その次は自転車繋がりがだったかな。3NINKAIには仲の良い同世代かちょっと下ぐらゐの子たちがよく来るようになって、そういう子たちに固定観念をつけていうか、「パーティー好きにしたらええやん」「みたいなのをやりたくて。この箱は平日入場無料なんです。今時平日のパーティーでもエントランス1〜2千円とられてもおかしくないの

ありがたいんですよ。僕はバイト帰りにMEMEMEに寄って一杯飲みながら本を読んだりするんですよ。こんな風に「パーティーやけど、パーティーじゃない感じにした」と思って僕は3NINKAIでは「何をやるつもり」としてステートメントを出しています。

—— こういうステートメントを出しているパーティーは希少では？

少なくとも僕の周りではあんま出してない。僕らが「クラブで遊んでます」と言った時に「チャラいじゃない」とみたいな反応がまず来るのが嫌で。「クラブチャラい」とイメージして男女別料金が根本だと思っただけです。女性を商品化しているというか、入場無料で来る女の子を目当てにした男たちでクラブの経済が回っているのは不健全というか、誰かを消費しているみたいで気持ち悪いなと思って。そういうイメージがある中で僕はできるだけクラブに行ったことのない人たちにも来てほしいんです。そう考えた時にやっぱり「平等だよ」としてはつきり示すことがすごく大事だと思って。

—— コレクティブも既存のクラブ界限に

対するオルタナティブでありたいという思いは当初から強くありました。だから音量は爆音でやらないとか、夜中じゃなくて週末の夕方にやるだとか。既存のものとはちょっと違う音楽の接し方をしてほしいんじゃないかっていう。そういう点ではコレクティブと3NINKAIは共通点があるかもしれないですね。

僕もプレス・コレクティブのアーカイブを読みながらめっちゃ共感しました。

column

Footwork Disk Guide

POGO

DJ Rashad / DoubleCup

2013年リリース。シカゴのフットワークの重鎮にはTRAXMANやRP BOOなど、様々なトラックメイカーがいるが、DJ Rashadはシーンの中で特別な意味を持った人物であった。UKの初期ダブステップを支えたSoder9が率いるレーベルHyperdubと契約し、シカゴのストリートで生まれたフットワークという音楽を世界的なベースミュージックの文脈で世界に発信した最初の一人。惜しくも、2014年に交通事故で亡くなり、シカゴフットワークのレジデンダリーアイコンとして愛され続けている。本作はBPM 160ノリと半拍の80ノリの楽曲、またブレイクビーツが使われる楽曲など、現地におけるジューク/フットワークの多様性を感じられるアルバムだ。



OMOIDE LABEL /

Juke-Jazzやシリーズ

日本の老舗フリーダウンロード・ネットレーベルOMOIDE LABELにて2015〜2024年に日本のジュークシーンの盛り上がりに合わせて発表されたコンピレーション・アルバムシリーズ。ジューク/フットワーク自体、ダ

ンスのノリが合えばフットワークだという定義付けのジャンルなので、各トラックメイカーが個性を出し、かなり自由なアプローチで制作された楽曲群が収録されている。シカゴ現地の文脈とは違ったサンプリング・カットアップのノリや、サンプリングのネタにゲームのチップチューンや日本の歌謡曲やアニメソング、またサウンドデザインとしてはレイヴ・レフトフィールド・インダストリアル・ドローンのなアプローチの楽曲も収録。



DJ Strawberry /

Straight forward

イスタンブール出身、ドイツ・ベルリン在住のDJ Strawberryは現在フンボルト大学で音楽文化関係の博士過程に在籍しながらDJ、トラックメイカー、音楽ライター、DJ、DTMの講師など、様々な肩書を持つマルチクリエイター。POGOのDJキャリア初期からTwitter越しに繋がりがある。2023年と2025年の来日公演の際にはジャパニーズアーの一貫として、POGOが大坂公演のオーガナイズを担当した。本作は東京のKoolSwitchWorldsよりリリース。DJ Fullonoをはじめとするミニマル・フットワークの影響を強く受けており、リミキサーも国内外さらにはシカゴの重鎮たちが名を連ねる。



book review

Japanese City Pop 100, selected by Night Tempo (2022年 / 303 BOOKS)



図書館で偶然見つけた本が存外面白かったので紹介します。本書は韓国DJ、Night Tempoによる日本のシティポップのディスクガイド。このジャンルが海外でどのように受容されているかが伺える内容です。レビューの担当者はNight Tempoではなく音楽ライターの池上尚志。各曲400字程度の簡潔な解説が見事。一方、Night Tempoはそれぞれの楽曲に自身の思い入れを添えています。この客観的な記述と主観的な記述のバランスが絶妙です。全ての楽曲に対して作詞家、作曲家、編曲家の情報が記載されており、裏方のキーパーソンも捉えられます。本書で紹介されている曲の中で僕の琴線に強く触れたのはCINDY「私達を信じて」と大橋純子「テレフォン・ナンバー」。ご存知なければ是非聴いてみてください。

(Tawaki)

